

近代社会が残した光と影を様々な視点から学ぶ

公害に向き合う



新潟水俣病の被害者の方々から、光も影もあった自らの半生を現地で語り継いでいただくプログラムです。

例えば、かつて阿賀野川で渡し舟の船頭をされていた方からは、父親から継いだ船頭稼業の思い出や、新潟水俣病の症状に苦しみながら差別を恐れて沈黙を貫いた日々、時代の流れで廃業を余儀なくされたあの頃、そして被害者として名乗り出た最近まで、映像作品の鑑賞や渡船場跡の見学を織り交ぜながら語っていただきます。

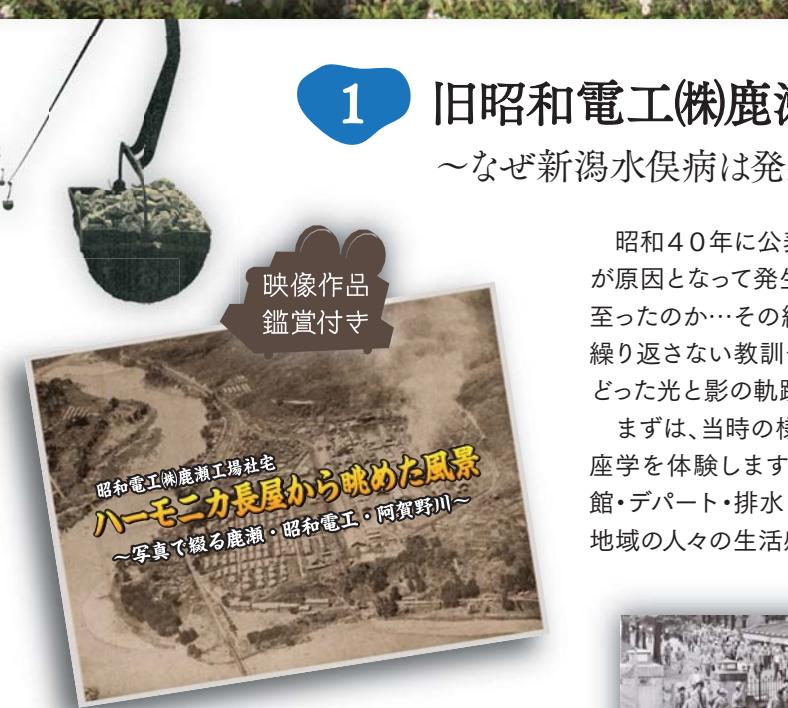
被害者が苦しまれてきた症状や差別の実態を痛切に感じ取れるだけでなく、ひとりの人間としての半生を丸ごとお聴きすることで、忘れられない出会いを体験できるでしょう。



～光も影もあった半生
を今だから語れる～

2 被害者が現地で語り継ぐプログラム

阿賀野川と共に生きたあの頃を
現地で次世代に語り継ぎたい

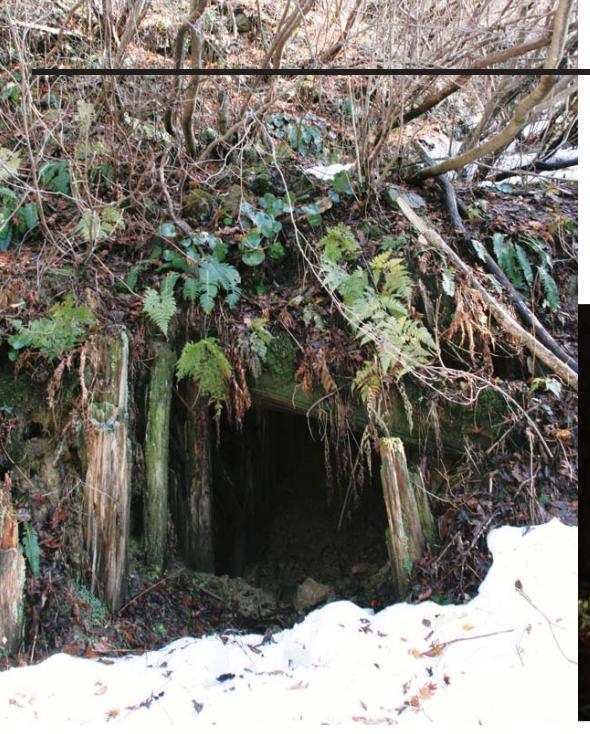


1 旧昭和电工(株)鹿瀬工場の光と影をたどるプログラム ～なぜ新潟水俣病は発生したのか、当事者の目線からたどる光と影～

昭和40年に公表された新潟水俣病は、鹿瀬工場が阿賀野川に流した有機水銀が原因となって発生した公害です。しかし、そもそもなぜ新潟水俣病が発生するに至ったのか…その経緯はあまり知られていません。そこで、このような悲劇を二度と繰り返さない教訓やヒントを、参加者が肌で感じ取って学べるよう、鹿瀬工場がたどった光と影の軌跡を五感を使って体験できるプログラムです。

まずは、当時の様子を実感を伴って知るため、映像作品を中心としたユニークな座学を体験します。その後、専門ガイドの丁寧な案内のもと、工場跡や社宅・映画館・デパート・排水口跡などの現地を実際に巡ることで、当時の工場内部の目線や地域の人々の生活感覚を追体験しながら、公害発生に至る経緯が学べます。





3 草倉銅山の光と影をたどるプログラム

明治期に古河財閥が操業した草倉銅山は、最盛期に6千人が暮らす繁栄をきわめ、その収益が初期の足尾銅山を支えました。しかし、その陰で発生した煙害などの鉱害の兆しが、後の足尾銅山鉱毒事件を予感させるなど、「公害の原点」と呼ばれる方もいます。銅を掘り尽くして大正期に閉山されると、あれほど賑わった町は姿を消しました。

まずは紙芝居などを通じて全体像を把握した後、100年以上たった今も存在感が残る草倉銅山本山やそのゆかりの地を環境ガイドが丁寧に案内し、自然との共生や資源の枯渇、真の地域づくりとは何かについて学びます。

▲ 実施場所:草倉銅山など 所要時間:2時間 受入人数:要相談 休み:冬期



4 阿賀のお地蔵さんから学ぶプログラム

被害者が多く住む阿賀野市千唐仁集落の阿賀野川のほとりには、虫地蔵と水俣地蔵が並んで建つ「阿賀のお地蔵さん」があって、集落のお年寄りなどが世話をしています。この水俣地蔵が建立される経緯から、それが集落に馴染むまでの逸話を、関係者の方から聴くプログラムです。



実施場所:千唐仁 所要時間:1時間
受入人数:40名程度(※それ以上は要相談) 休み:関係者の予定と調整

オプション
プログラム

公害に向き合う

紙芝居や映像作品 を体験しませんか♪

本ツアー最大の特徴は、公害関連プログラムにおいて現地を体験する前に、紙芝居や映像作品などを組み合わせたユニークな座学を体験していただけます!

どの作品も、地域再生の動きの中から生まれた珠玉の名作ぞろい★ プログラムにお好みの作品を独自に追加することもできますので、お気軽にお問い合わせください♪



1 紙芝居 3部作

流域の若者たちが制作した、大人も子どもも楽しめる紙芝居



※プログラム3には組み込まれています。

所要時間:(紙芝居) 15分前後 / (映像作品) 13分前後

2 映像作品

胸にせまる昔の貴重な写真の数々



※プログラム1には組み込まれています。



※プログラム2には組み込まれています。

紙芝居制作グループ 「こっこ」紹介♪



流域出身の若者からなるグループ。様々な史料や現地を調べ、親しみやすい絵とわかりやすい文を心がけ制作。グループ名の由来は「漬物」を意味する阿賀町の方言。